

多賀城発で多賀城着。ヒト・コト・モノを届けます

「tag」は多賀城をもっとよいまちにしていきたい、社会や地域のために何か活動したいという方を応援する月刊フリーペーパーです。



2013.3 vol.3
tag
たぐ

さざんかの会

パッチワーク
サークル

パッチワークで紡ぐ笑顔

多 賀城公園野球場仮設住宅にて住民同士が交流できるイベントを開催する住民団体「さざんかの会」。月に1回のパッチワーク教室も活動のひとつです。先生を務めるのは、生涯学習団体「パッチワークサークル」の方々。サークルメンバーの一人である熱海とも子さんは「自分たちの普段の活動を役立てたい」と快く先生を引き受けてくれました。

この教室の目的は作品を完成させることではありません。パッチワークをきっかけに交流することが一番大切です。集会所に集まり、楽しくおしゃべりしながら作業することで参加者の間につながりが生まれました。

今回は「さざんかの会」の代表 伊里山いさ子さんがパッチワークの先生を探しているということでたがさぼを利用している「パッチワークサークル」をご紹介します、つながりができました。

「こんな活動してみたい」「こんなことしている団体ありますか？」という方がいましたら、ぜひたがさぼまでご相談ください。



ヒント from “たがさぼPress”

たがさぼのブログから地域づくりに役立つ記事をご紹介します

詳しくはブログへ <http://blog.canpan.info/tagasapo/>

● **ゆる〜くつくる地域密着型のフリーペーパー** 2013年2月9日(土)掲載
「徹底比較！西荻のすべり台」など西荻を愛する人たちによるフリーペーパー。まちの魅力を発信するヒントがここにあり。

● **学生と社会人をつなぐ仕組み** 2013年2月2日(土)掲載
さまざまな職種の市民を招き、中学生や高校生とつなぐNPO法人「ハーベスト」。大人と学生の出会いの場はこうしてつくられる！

● **寒いけど熱かった雪まつり** 2013年2月28日(木)掲載
「tag」vol.2の表紙を飾った多賀城月の市実行委員会による雪まつりをレポート。大きななまくらや本格雪合戦など楽しい企画が目白押し！

“たがさぼPress”とは？

たがさぼスタッフによるブログ。
興味が湧いたらたがさぼPressへ！

*ケータイ、スマホからでもご覧いただけます。



たがさぼからのお知らせ

たがさぼが企画する「一歩ふみだすきっかけ」をご紹介します

「tag」はここで読めます！

2013年1月から毎月発行している情報誌「tag」。多賀城市内のさまざまな場所に置いてあります。ぜひ次号以降も手に取ってみてください。

「tag」配布場所

- ・総合体育館
- ・図書館
- ・文化センター
- ・山王、大代地区公民館
- ・子育てサポートセンター
- ・東北学院大学工学部キャンパス(食堂向い掲示スペース)
- ・多賀城市内スーパーマーケット



コンビニエンスストア、飲食店などどんどん増やしていく予定です。詳しくはたがさぼのブログにて順次お伝えしていきます。



「過去」が「今」へ語ること 「未来」へ「今」を語ること

多賀城の震災を記録した2冊の本

「忘れまい大震災」と「3.11を忘れないで―東日本大震災の痕跡―」。
今回はそれぞれの著者から記録に込められた想いをうかがいました。

■ 図書の紹介

「忘れまい大震災」発行：多賀城民話の会

多賀城民話の会メンバーの震災時の行動、想いをまとめた1冊。体験談の他、津波に関連する多賀城の伝説も紹介されています。

「3.11を忘れないで―東日本大震災の痕跡―」発行：宮城武雄

震災当時・直後の様子を掲載した記録集。詳細な標高図、浸水域・津波痕跡高概況図、潮位推算図なども掲載されています。

「忘れまい大震災」「3.11を忘れないで―東日本大震災の痕跡―」については、3月12日(火)のたがさぽブログにて詳しく紹介しています。また、2冊ともたがさぽ内の図書コーナーで閲覧できます。

齋藤ゆゑ子さん(多賀城民話の会 代表)



主に東北歴史博物館、学校、公民館、老人会などで民話語りの活動をしています。

宮城県民大学 郷土史講座を受講したメンバーが、講座が終わっても郷土史を勉強し、語りつづけていきたいということで立ち上げました。

宮城武雄さん



は各々の立場の視点を織り交ぜながら作成されました。

長年、美しいふるさとの風景を撮影してきたアマチュア写真家。多賀城史跡案内サークル、民生委員としても活動しています。今回の記録集

➡ 震災を経験した者として

宮城：私は避難所となっていた多賀城東小学校で避難者に食事を配る係をしていました。食事を配った時にある女性から「震災の写真は撮っていますか？」と言われました。考えてみると震災後、保険で使えるように同じ町内の人の家屋などの写真は撮っていましたが、あまり震災の写真は撮っていませんでした。ある時、トラックで支援物資を運んでくれた方を見ながら、私に何か出来ることはあるだろうか、と考えた時、女性の言葉を思い出し、千年に一度の大震災に見舞われた者として、記録を残そうと思い立ちました。

齋藤：民話の会も多くのメンバーが被災してしまいました。実は震災が起こる5日前の3月6日、文化センターで八幡の津波にまつわる伝説「こさじ物語」を語りました。この「こさじ物語」をはじめ、多賀城に残る多くの伝説は「地震が起こったら津波が来る。津波が来たら高い所に逃げろ」という教訓になっています。しかし、語ったばかりにも関わらず、私たち自身も教訓を活かすことができませんでした。私たちも民話をやっている団体なので、語りの中で今回の震災の記録も伝えていければと思います。

➡ 報道の目線、私たちの目線

齋藤：テレビや新聞などは被害の大きかった部分を何度も繰り返し報道している印象があります。しかし、多賀城はあまり報道されることはありませんでした。多賀城の地は、大昔の津波でもたくさんの被害を出した場所です。歴史的な視点からも多賀城のことをもっと伝えていきたいです。最近はPRの上手なところばかり報道されてしまうのかもしれないね。

宮城：私たちも上手に報道を活用することが大事ですね。しっかり多賀城から記事になりそうな情報発信をしていきたいです。新聞社の方に私の記録集をお見せしたとき、「この記録集は被災者の目線で作られていますね」と言われました。記録している時は全然そんなこと意識せずにやっていたのですが、結果的にそのようになっていたようです。報道はやはり客観的に状況が伝えられるものですが、私の記録集は多賀城に住んでいる人、これから多賀城に住む人が活かしていけるものにしたいと思っています。

➡ 私たちが伝えていきたいこと

宮城：地震はこれからも来ます。やはり一番は若い人、後世の人たちにメッセージを伝えたいです。私の記録集には潮の干満のデータや場所ごとの津波の高さなども掲載しています。満ち潮の時に津波が来ていたらもっと被害があったかもしれません。そういったことも考えながら防災対策をしてほしいと思います。また、みなさんは家や職場の地盤、高さなどについてはある程度把握できていると思います。しかし、遊びに行った先や買い物先、通る道はどうでしょうか？そういったところはおそろそそになりがちです。自然災害が起こるのは仕方のないことです。そういう土地に人は住んできたわけですからね。大切なのは自分に関わる土地のことをよく知り、いざという時に行動できるようにしておくことです。

齋藤：地震以外でも、例えば火山地帯なども観光地になっている場所が多いです。しかし、その場所も過去に災害に見舞われています。今はそのことがすっかり忘れられてしまっています。その土地の歴史を遡ることも防災には必要ですね。私たちも多賀城に住む者として、また、民話を語る者として歴史に残された教訓とともに今回の経験をしっかりと後世に伝えていきたいと思っています。

お二人から貴重な
お話を伺いました



What's



「tag」には、多賀城 (tagajo) の頭3文字、みんながタグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ(価値)をつける、という意味が込められています。



「たがさぽ」ではツイッターもやっています。フォローお願いします！
@tagasapo



「たがさぽ」ホームページはこちら
<http://www.tagasapo.org/>